

CASBEE-広島 2014年版
(仮称)広島八丁堀プロジェクト

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.7
Q1 室内環境			0.40		-			3.5
1 音環境		4.0	0.15	-	-			4.0
1.1 騒音	レベル45dB以下	4.0	0.40	-	-			
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能	遮音性能T-2	5.0	0.61	-	-			
2 界壁遮音性能		3.0	0.39	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			
1.3 吸音	床(タイルカーペット)、天井(ロックウール)の二面に吸音材を採用	4.0	0.20	-	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御		3.2	0.50	-	-			
1 室温		3.0	0.38	-	-			
2 外皮性能	断熱性能の高い建材の採用	4.0	0.25	-	-			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-			3.4
3.1 昼光利用		2.4	0.30	-	-			
1 昼光率		2.0	0.59	-	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.41	-	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-			
1 グレア制御		3.0	1.00	-	-			
3.3 照度	700lx	4.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御	複数の点滅区分があり、スイッチで調整可能	5.0	0.25	-	-			
4 空気環境		3.9	0.25	-	-			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を採用	4.0	1.00	-	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.6	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.34	-	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-			
3 取り入れ外気への配慮	各種排気と異方位かつ6m以上離して設置	5.0	0.34	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	喫煙室の他空間との完全区画、専用の排気ファンの設置	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.9
1 機能性		4.1	0.40	-	-			4.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40	-	-			
1 広さ・収納性	執務スペース9㎡/人以上を確保	4.0	0.33	-	-			
2 高度情報通信設備対応	OAフロア、OA機器用コンセント容量40VA/㎡以上等の対応	4.0	0.33	-	-			
3 バリアフリー計画		3.0	0.34	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	天井高2.8m、十分な窓の設置	4.0	0.33	-	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-			
3 内装計画	建物全体のコンセプト、機能促進に配慮した内装計画	5.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材の採用、清掃のしやすさに配慮した設計	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	清掃用具室の設置等、維持管理のしやすさに配慮した計画	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30	-	-			3.7
2.1 耐震・免震		3.2	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	制振装置の導入	4.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	耐用年数の長い外装材の採用	5.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装材の採用	5.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	耐用年数の長いダクト材の採用	5.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材の採用	4.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			4.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	災害時の重要度の高い系統の優先運転計画、吊配管	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、給水の系統分け、二基の水槽設置	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電機、UPSの設置、受電設備の二重化	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA以上	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信手段の多様化、引込みの2ルート化	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高4.2m以上を確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床荷重の割増	4.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OAフロア、システム天井の採用により、仕上材を痛めず更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ調和に配慮した景観計画	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間提供による地域貢献、防犯性への配慮	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い建材の採用	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.74 住宅(専有部) -	4.8	0.50	-	-	4.8
集合住宅以外の評価(3a.3b)		高効率な機器の導入	4.8	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別にエネルギー消費量を計測	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	管理体制の整備、エネルギー消費量の目標値の計画	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減		F=325以上の鋼材、BCP柱等の採用	5.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		杭に高炉セメントB種を採用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		給湯室等のビニル系床材、事務室等のOA床、廊下等の岩綿吸音板	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能な構造、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まない材料を4種類採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮		高効率な設備機器を採用し、CO2を低減	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2.1 大気汚染防止		高効率な機器の導入	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な駐輪・駐車スペースの計画	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの分別容器の設置、有価物の計画的回収、減容化対策の実施	5.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	